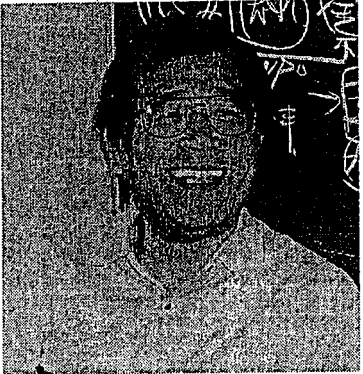


とくと福



滋賀県社会福祉協議会事務局次長
(兼)レイカディア振興部部长
北川憲司さん(56)

団塊世代が日本を変える 最後のチャンス

介護や年金の問題に 年県職員に。公共事業 さまざまな仕掛け(ハ) からんで団塊世代が一 の用地買収 補償の仕 事を機に「人間存在の を巻き込んできた。関 が多く出てくる湖南 J 年後をどう乗り越える 奥深さを知った」。30 関係の間では「穴掘り R沿線エリアで展開 代後半から環境系の市 民運動とかかわり、40 屋ケンちゃん」のニッ クネームと呼ばれる。 2004年度から 「高齡エンジョイ地域 活動モデル事業」を近 江八幡市で始めた。こ からは、退職直後の過 進法」に結実させた。 行政マンとして環境 ケア、障がい福祉、子 育て、文化ななまを まな市民ネットワーク とかがわる中で「各分 もりがちな退職サラ リーマン層の相談に のつたり、興味を持って 民間企業を経ては 高まる」。そのために

何かしたいが きっかけが... 退職後の 生きがい支援



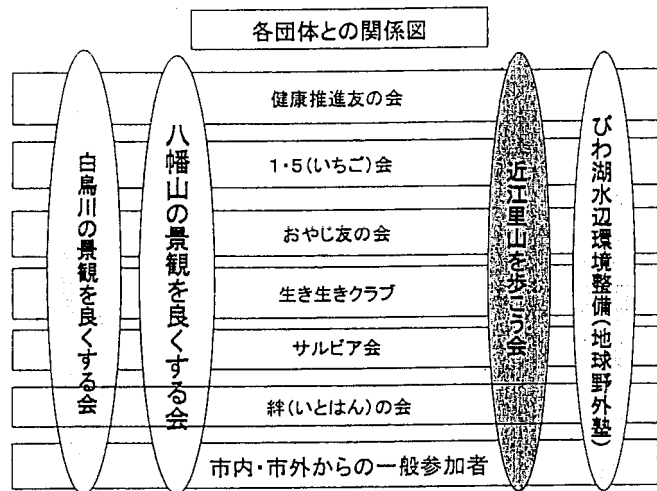
障がい者、高齢者の外出を応援している盛さんと仲間たちの入りにボランティア「盛川 和也さん」に話を聞いた。

盛さんがおられるのは、滋賀県八幡市にある「盛川 和也さんの居る場所」です。ここには、障がい者や高齢者の外出を応援するための活動が行われています。盛川さんは、ボランティアとして、地域の課題を解決するために取り組んでいます。彼の活動は、地域住民の生活を支える重要な役割を果たしています。

60歳からの地域デビュー 「仲間づくり」がキーワード

退職後の生活は、どのように過ごすのか。多くの人が悩んでいる。しかし、地域に参加することで、新たな生きがいを見つけることができる。60歳からの「地域デビュー」は、人生の第二幕を開く重要なステップです。まずは「仲間づくり」から始めよう。地域のイベントやボランティアに参加し、新しい友達を見つけよう。これにより、生活が豊かになり、心も軽くなるはずだ。

OYAJIRENの概要図



これまでの主な活動分野・内容

- 10 八幡山公園上部の荒廃竹林・コナラ林の整備 (毎月二回の作業)
 - 頂上部西の丸・北の丸の展望改良・竹柵、ベンチ設置
 - 八幡山頂上の城址の石垣の清掃と植栽 (毎月一回の作業)
 - 白鳥川堤の雑草刈と桜並木の植樹、花の球根・種苗の植え付け (毎月二回の作業)
 - 周辺の里山歩きルート走破と地域の歴史の学習 (毎月一回)
 - 小学校の卒業記念植樹 (桜・・・八幡山公園)
 - 近江商人屋敷の整備と町屋の活用
 - びわ湖岸の環境整備 (長命寺港先地区) (毎月一回)
 - 八幡山縦走路の完全開通と整備
 - 絵画教室 (水曜サロン) ・ パソコンの初心者指導応援
 - 市民タケノコ掘大会実施
 - 八幡堀祭りへの協賛
 - (資料館～京街道筋～観音山の願成就寺までの竹行灯300本設置)
 - 周辺の小川・水路のお魚調査 (一部安土地区含む・琵琶湖博物館協賛)
 - 西の湖の葦刈ボランティア
 - 市の社会福祉協議会行事協賛 (夏の福祉学級で竹細工教室指導・あそび指導)
 - びわ湖でしじみ採り
 - 市の環境フェスティバル・農業祭への出展 (竹工作品の販売)
 - おやじ喫茶で、各種行事にコーヒー廉価提供
 - 滋賀県主催の『退職サラリーマンシニア活動 FORUM』への活動展示パネル出展
 - 映画『藤野行 わらびのこう』の上映実行委員会、10/29文化会館 於

近江八幡 OYAJIREN

市内在住の定年退職男性が中心となって、その誕生は年次別に構成されています。

出身地は全国に亘り、サラリーマン時代に大阪や京都を通勤圏として、その居宅をたまたま この近江八幡に構え、『終の栖』と決めた人が多い。

永年勤めた会社の仲間達とも、定年退職をきっかけとして離れてしまうと、一人寂寞感を感じるものです。そして地縁も血縁も少ない土地で、新たに地域のコミュニティに溶け込むきっかけとなったのが、市が主催する料理教室やパソコン教室です。

まだまだ気力も体力もあり、そして人生経験も豊富な人達が、多忙なサラリーマン時代には全く気付かなかったこの地、近江八幡の豊かな自然環境と歴史・文化に触れて、この町で心豊かに充実した第二の人生を送る為、新しい仲間達と共に社会・地域に何か役立つ事がしたいという気持ちから発して、市民活動にその道を見出した人が大半です。

勤め人としての責任や役割を終え、子育てからも解放され、さあこれからは自由気儘に毎日を楽しく過ごしたい、これが本音であり、たまたまその対象となる活動が結果的にボランティア活動になっている事に気付きます。

幸いにもここ近江八幡には、他所には無いほどの独自の地域特性(重要文化的景観全国第一号ほか)が多くあり、これに私達の新たな創意工夫を加える事で、更に豊かな町、そこに住む事が憧れられる町に生まれ変わる可能性を多分に持っています。

自分が住むこのまち、近江八幡のブランド力(住む人の誇り)を高めるために、少年時代の感性と旺盛な好奇心、フットワークで、新しい仲間達と『不良中年』しませんか？

みんなでやれば楽しい

みんなでやれば面白いもの(こと)が出来る

みんなでやればよりでっかい夢を実現出来る

みんなでやれば恐くない

みんなでやれば、女房どもも喜ぶ

そして医者要らずで長生きも出来る

これぞ『人生の達人』への近道か.....

かじやの里の新兵衛さん

—地域ボランティアが年末大掃除—

「新兵衛さん」は、お隣の芝生を大切に育てるお母さん。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。

「もちつもたれつ」助け合い

「新兵衛さん」は、お隣の芝生を大切に育てるお母さん。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。



庭園の剪定に集まった地域ボランティア

ボランティア代表の村田さん「お母さん、お父さん、お友達と一緒に、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。」

「お母さん、お父さん、お友達と一緒に、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。お母さんは、お家の掃除をしてくれる。お父さんは、お母さんのために、お家の掃除をしてくれる。」

滋賀報知新聞

東近江 五ヶ荘 能登川

発行所 滋賀報知新聞社
 (中野) 東近江市中野町1-0-1
 TEL 0748-231111
 (大津) 大津市津村1丁目3-21
 TEL 077-5271111
 (高島) 高島市高島町7-12-3
 TEL 0120-251111
 (東部) 東部中央地区第一丁B4-1
 TEL 03(3552)0733
 (大津) 大津市北区文三-7-19-1
 TEL 0548-357191
 © 滋賀報知新聞社(2006年)
 © 滋賀市民新聞社

平成 18年(2006) 12月29日(金)

JR能登川駅東口徒歩1分
 お食事処 居酒屋

茶 締 (ちまこ)

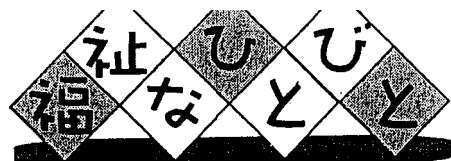
営業時間 am 10:00 ~ pm 11:00

お座敷ございます

TEL 0748-42-255

各種バス 商用車・乗用車等

レンタカーは (有)近畿レンタリース
 マイカーは マイカー近畿
 ☎ 0748-48-3240



遊林区・世話役 武藤清蔵さん(54)

一緒に汗し昼食を共に この体験が人をつなぐ

「ここはまさに青空の場や高齢者の生きがい発見の場になって笑う。」河辺いきもの「いたんですね」
 森「の保全活動を行う 環境市民団体遊林区職員。現職の「花と緑で世話役を務める武藤清蔵さん(54)愛知川は財務畑一筋だった。河辺に広がる約15分の森を昔の里山にのみがえらせようと集まるボランティアの中心層は、定年退職した60-70代の男性や子育てを終えた女性たちだ。」
 「保全活動をするうちに、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ...」
 「保全部門の活動に、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ...」
 「保全部門の活動に、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ、自然体験の楽しさ...」

のとが浜

発行：社会福祉法人

第1015号

能登川町社会福祉協議会

能登川町猪子124番地
能登川町総合健康福祉センターなごみ
TEL42-8703 FAX42-8709
有線9495

地域の中でお年寄りや 子どもの居場所づくりを

県社協事務局次長 北川憲司氏の講演を受け地域に宅老所が必要と感じられたレイカディア大学修了生有志4名が民家を借りてお年寄りと子どもと一緒に集える宅老所「おいでやす！吉兵衛」を開設されました。開催日時は毎週月曜日10時から16時までです。お茶を飲みながら昔話を花を咲かせたり、お手玉で遊んだりする人もいます。いつ来て、いつ帰っても良い空間です。参加料は無料、お昼は弁当を注文するか自分で持ってくるか自由です。誰にも気がねなく参加できるそんな居場所づくりを目指してボランティア一同意欲的に取組んでおられます。

福堂に宅老所オープン！

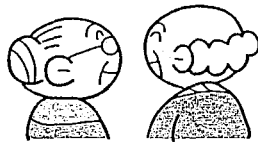


4月4日～



～お願い～

不要となったソファ(2、3人掛け)がありましたらご寄贈下さい。
※使用できるものに限りです。



能登川町福堂レイカディア大学修了生代表
田井中 孝一 電話 45-0047

1997年04月01日発行



懐かしい生活道具を見て、生き生きと会話を
お年寄りら。自然に笑顔がこぼれる。

“懐かしさ”の力 介護予防に

回想法は、昔懐かしい写真や生活用具などを用いて過去の記憶を思い出し、語り合うことで脳の活性化を図る。埋没法で介護予防や認知症ケアなどに効果がある。全国の老人保健施設で取り入れられるようになった。しかし、この回想法を地域ケアに組み込む自治体は少なく、能登川の取り組みは先進的。

「これで楽しく遊んだねえ」「懐かしいな」「見ず知らずの人たちが長年の友人・知人のように会話を弾ませる不思議な力」「スタルジ」を活用した「回想法」が、いま、老人保健施設などで注目を集め、高齢者の健康増進や認知症ケアなどに期待が寄せられている。そんな回想法を使った全国でも新しい試みが、能登川町立博物館(現、東近江市立能登川博物館)と能登川町社会福祉協議会(同町社協能登川支部)で始まり、文化、福祉、教育が一体となった地域ケアが行われている。

博物館と福祉のコラボレーション

民具使い文化・福祉・教育が一体

目指せ、「能登川方式」回想法

大きな特徴は、高齢者を館に招くのではなく、学芸員、ケアスタッフ、地域ボランティアらが出掛けていく出前形式で、古民家を改修した認知症専用単独型通所介護施設「かじやの里」の新兵衛さんや子どもたちの声が届く能登川東小学校の地域交流教室などを活用する。これは、地域に近く、より家庭的な雰囲気の中で全国的に削減傾向にある博物館事業だが、教育福祉など、このように社会貢献できる意義は大きく、地域福祉としての活用はまだまだ広がる。

同博物館は、捨てられ忘れられていく生活道具を、先人の知恵と文化、技術が詰まった重要な資料として収集し、未来に活かす展示活動を行っており、約二万点のうち自然系資料三千点、この資料を一つでも多く見てもらおうと、常設展を置かない住民参加型の企画展を開催。開館九年で五十九回を数える屈指の開催数を誇り、楽しんでほしいという思いを語る来館者から、懐かしさを福祉に結ぶ「回想法」を考え、能登川町社協も民具を採り、両者がタイアップした回想法事業がスタート。昨年十一月には、全国の先進地である愛知県師勝町の歴史民俗資料館を視察、研修した。これらを基に、地域性を活かした「能登川方式」を目指すもので、全国でも珍しい文化・福祉・教育の一体活動を行う。



笠や手甲など、実際に使いたる民具

